

窓辺

山賊と海賊の遺伝子

もり ひろし
毛利 博

直面している新型コロナウィルス感染症の現状と医療体制、そして医療者に対する働き方改革の問題点、さらには地域医療の道筋など、皆さんの健康に直結するかもしれないことについて触れていきたいと思いま



す。

その前に、自己紹介。私は横浜市立大医学部の卒業ですが、縁あって藤枝市立総合病院に2004年に着任しました。17年からは県

病院協会会長を務めています。本籍地は広島県です。広島県で毛利といえば毛利元就を連想されると思います。下克上で成り上がった元就は、私の本籍地の近くで旗揚げしており、何らかの関係があるようです。元

就は地方の一豪族にすぎませんでしたが、姻戚関係などさまざまな戦略を用いて中国地方の大名になりました。また、母方は因島出身です。因島は村上水軍の本拠地のひとつであり、血筋はバリバリの海賊です。私はいわば山賊と海賊の

遺伝子を受け継いでいるようなもので、良くも悪くも両方の性格を兼ね備えているようです。個人的には、独断はせずに周りの意見を聞き、その中から進むべき道筋を考え、決断即実行します。

これからの時代は、どれだけ先を読んで行動するかが大切であり、新型コロナに限らず危機管理体制の構築はますます重要になります。医療の世界でも問題点が明らかになり、広く浅い医療提供体制の限界が見えてきました。今後50年、100年先を見据えた体制づくりをするチャンスが今だと思えます。

（県病院協会会長）
藤枝市病院事業管理者